

幼稚部 重度・重複学級

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

聴覚に障害のある幼児・児童に対し、将来、社会参加・自立していくために必要な資質や能力の基礎を育む。そのために、豊かなコミュニケーションを基盤に、以下の4つの柱をもって教育を行う。

① 日本語

保有している聴力を最大限活用し、多様なコミュニケーション手段を身に付け、日本語で読み書きできる力を育み、日本語で表現する力を育成する。

② 学力

幼稚園教育要領や小学校学習指導要領の目標・内容に準じて教育を進めるとともに、障害の状態及び発達段階や特性等に応じた指導を行い、自ら考える力や確かな学力を育成する。

③ 社会性

思いやりの心や社会生活上のルールを身に付け、社会で主体的に生きていくための年齢相応の社会性を育成する。

④ 健康

自分の健康に対する理解や意識を深める教育を推進するとともに、健康でたくましい心身を育成する。

(2) 幼稚部の教育目標

- ・伝え合うことを楽しむ子供
- ・自分で考える子供
- ・友だちとなかよく遊ぶ子供
- ・元気な子供

(3) 幼稚部の教育目標を達成するための基本方針

- ・二学期制の利点を生かし、保育時間を十分確保し、ゆとりをもって指導にあたる。
- ・遊びを中心とした生活を通して、一人一人に応じた総合的な指導を行い、心身の調和のとれた発達の基礎を培う。
- ・見通しをもちやすい安定した生活の中で、身近な環境を理解し、自分のことは自分でしようとする意欲や技能を育てる。
- ・実際の体験を通して、興味や関心を引き出し広げていながら、身の回りの環境に対する理解や、自らかかわっていかうとする意欲や態度を育てる。
- ・共感的な活動の中で、人とかかわりの楽しさを味わい、周りの人への基本的な信頼感を育てる。
- ・実物・写真・絵・文字なども含めた、多様なコミュニケーション手段を活用し、よく分かる生活を実現し見通しをもち、安心して生活できるようにするとともに、それぞれの特性に応じた方法で、周りの人とかわる意欲や技能を育てる。
- ・読み聞かせを通して、読書への興味・関心を育てる。
- ・生活のリズムを大切に、健康的な生活が送れるよう支援する。遊びの中で体を活発に動かす活動を多く取り入れ、運動機能や体力の向上を図る。
- ・普通学級や他学年の幼児との交流をすすめ、幼児同士のかかわりの中で、活動に対する意欲や社会性を育成する。
- ・幼児の実態把握に当たっては、一人一人の長所や得意なこと、できることなどに重点を置いて丁寧に観察・把握する。
- ・幼児一人一人の「できる（こと）」を生かし、個別目標を明確にした個別指導計画を作成し、教育活動を行う。
- ・幼児や保護者のニーズに応じて個別の教育支援計画（学校生活支援シート）を策定し、支援会議や引継ぎ会の実施などを通じ、教育・福祉・医療・専門機関等が連携し、支援や指導の充実を図る。
- ・就学支援計画の策定に協力し、入学する小学校や特別支援学校小学部と連携し、支援の充実に努める。
- ・小学部との合同の活動を実施するなど、学部間交流を積極的に実施し、連携を密にし、小学部への円滑な接続に努める。

- ・乳幼児教育相談在籍の2歳児との活動を実施するなど、交流を積極的に実施し、連携を密にし、幼稚部への円滑な接続に努める。
- ・幼児の実態を的確に把握するために、発達検査等の諸検査を計画的に実施する。
- ・週ごとの指導計画を活用し、連続性を重視した保育を実施する。
- ・人権教育の全体計画を作成し、教職員の共通理解のもと、教育活動全体を通じて、人権教育を推進する。
- ・安全教育プログラムを活用して安全指導計画を作成し、保護者と連携して、幼児が常に健康で安全な生活がおくれるように配慮する。
- ・保護者が聴覚障害や自身の子どもについて理解を深め、見通しをもって子育てができるように支援する。
- ・聴覚障害教育、幼児教育に関する研修や研究保育を実施し、教員の資質及び指導力の向上を図る。
- ・家庭や地域との連携を深め、聴覚障害教育に対する一層の理解や協力を得る。
- ・保育や行事の参加等、成人聴覚障害者による保育を積極的に取り入れる。
- ・学校運営連絡協議会や外部からの人材などを積極的に活用し、様々な意見が教育活動に反映されるようにする。
- ・本校、分教室間の交流を積極的に図る。